

令和5年度岐阜県合同輸血療法委員会
議事要旨

- 1 日時 令和6年2月16日（金） 13:30～15:00
- 2 場所 岐阜県赤十字血液センター（岐阜市茜部2-10）
- 3 出席者

所 属	氏名	役職	備考
一般社団法人 岐阜県医師会	西野 好則	常務理事	○
一般社団法人 岐阜県薬剤師会	鈴木 昭夫	副会長	
一般社団法人 岐阜県臨床検査技師会	森本 剛史	輸血検査部門長	
国立大学法人岐阜大学 医学部附属病院	中村 信彦	輸血部副部長	委員代理
大垣市民病院	小杉 浩史	血液内科部長	◎●
岐阜市民病院	北川 順一	輸血部長	
独立行政法人 岐阜県立多治見病院	小澤 幸泰	血液内科部長	
社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院	鶴見 寿	病院長代理	
社会医療法人厚生会 中部国際医療センター	山田 宏和	麻酔科部長	
岐阜県赤十字血液センター	高橋 健	所長	

備考欄：◎委員長、○副委員長、●専門部会長

【事務局 他】

所 属	役職及び氏名	
岐阜県健康福祉部薬務水道課	課長	居波 慶春
	献血運動推進監	河村 正典
	課長補佐兼係長	柴田 裕一
	技術主査	林 小夏
岐阜県赤十字血液センター	事業部長	岩崎 秀一
	学術情報・供給課長	志知 俊
	学術係長	和田 美奈
	供給係長	高井 真一

4 議題・報告等

- (1) 令和5年度事業報告
 専門部会活動報告について
- (2) 令和6年度事業計画（案）について
- (3) 献血推進事業の状況について
- (4) 血液製剤の供給状況について
- (5) その他

5 議事要旨

冒頭、薬務水道課居波課長及び岐阜県合同輸血療法委員会小杉委員長があいさつを行った。

岐阜県合同輸血療法委員会設置要綱第4条第3項及び第4項の規定に基づき、議長は西野副委員長が代理となり議事を進行した。

(1) 議題1 令和5年度事業報告

・専門部会活動報告について

小杉専門部会長及び各WGリーダーから、資料に基づき説明を行った。

<説明概要>

WG1では、岐阜県調査と学会全国調査の突合解析を行った。県調査では令和2年度分から新型コロナウイルス感染症との関連性について調査している。輸血療法における影響はこの2年間で大きく減少していることがわかった。また、小規模医療機関では、外来輸血や自己血使用の未実施の傾向が見られた。

WG2では、ここ数年重点的に取り組んできた中規模病院の適正化推進スコアと廃棄率の解析において、改善の兆しを見いだせた。また、情報交換の場の形成として、薬剤師研修会をハイブリッド方式で開催し、すべての二次医療圏から過去最大数の参加をいただけた。輸血認定看護師活動では、看護師会合、業務アンケート調査を実施し、輸血に関する知識の理解度の現状等を把握することができた。

WG3では、ここ数年コロナ禍においてはWeb研修等を活用して交流を図ってきたが、今年度は4年ぶりに現地開催でモデル的病院の相互視察研修を実施することができた。今後、Webと現地の利点を活かして相互研修プログラムを通じて各病院のレベル向上に寄与していく他、e-learning教材の作成にも取り組んでいく。

WG4では、過去に「在宅輸血」をテーマにしたアンケート調査を実施し、小規模医療機関のニーズ把握をすることができた。今年度は、新たな課題抽出のため、次年度以降のアンケート調査の内容や対象施設など、中長期的な施策を検討した。

WG5では専門部会NEWSを発行した。各施設輸血療法委員会で、岐阜県合同輸血療法委員会活動からの提供情報を共有し、自施設での改善に必要な情報として活用いただきたい。Vol2は本委員会終了後に発行される。

WG6について、岐阜県の認定検査技師数は、全国平均を下回る結果となり、今年度の委員会事業計画にも「認定輸血検査技師の育成強化」として盛り込まれることとなった。これまでの専

門部会活動等での認定技師試験の受験勧奨により、中小規模病院においても受験希望者が増えてきたため、今後さらなるバックアップをしていく。

WG 7では、血液センターが企画し、輸血に関する企業主催の輸血医療に関する学術講演会を通じて情報発信できた。専門部会会員による学会報告などの活動も、Web・現地参加を行い、県内の取り組みについて発表を行った。

WG 8では、新規の標準ツール作成は必要なかった。今後も国の指針改正などに伴って必要と思われる標準ツールが見出されれば、作成提供を続ける。

(専門部会活動の今後への提言)

- ① 一部の廃棄率目標未達成が持続している一部の中小規模病院への支援を強化・拡充する必要がある。
- ② 専門性資格保有者の活用と拡充が重要である。(強化)
- ③ 開発・教育・研修・監査体制の構築により自律的に適正化推進が可能となるまで相談支援を強化する。
- ④ 引き続き、モデル的施設としての I&A 認証施設を確保する。(来年度大規模病院 2 施設予定)
- ⑤ 各種研修会、E-learning 研修のツールの拡充をはかる。(強化)

(小杉委員長)

WG 2 の薬剤師会の活動について、鈴木先生ご意見いかがか。

(鈴木委員)

薬剤師研修会については、Web を活用して全ての医療圏から参加いただくことができ、人数も増えて良い成果につながっている。一方で、参加者からの要望として、病院薬学認定薬剤師の取得にあたって、研修会受講による単位付与が必要であるが、この薬剤師研修会についても岐阜県薬剤師会との共催とすることとし、単位付与の対象としていただけないか。それによって参加者がさらに増えていくと思う。

(小杉委員長)

県病院薬剤師会の規約に抵触しないのであれば、単位付与という形で検討していただきたい。

(西野副委員長)

薬剤師研修会に Web を活用することで、参加者が増加しており、今後も引き続き活用していくのか。

(鈴木委員)

飛騨・東濃の医療圏は遠方であり、現地での参加が難しくオンラインだからこそ参加していただいていると思うので、今後もぜひ活用していきたいと考えている。

(小杉委員長)

中小規模病院の認定技師確保について、鶴見先生ご意見いかがか。

(鶴見委員)

研修を積極的に受けられるなど、教育体制が必要であるが、中小規模病院のみでは難しい。まずは大病院で枠を作って、進めていく体制があると良い。

(小杉委員長)

北川先生、院内の状況などコメントをお願いします。

(北川委員)

当院は認定技師に関して、昨年1人合格し、安心しているところであるが、検査技師の枠の中に輸血部があるので、輸血部独自のステータスを高めていかないとなかなか増えていかないのではないか。

(小杉委員長)

山田先生、院内の様子などいかがか。

(山田委員)

当院はまずは認定技師を1人養成するというのが目標。そこから2人、3人と増やしていきたい。

(西野副委員長)

では、事務局でまとめをお願いしたい。

(2) 議題2 令和5年度事業方針計画(案)について

薬務水道課柴田係長から資料に基づき説明を行った。

<概要説明>

岐阜県合同輸血療法委員会は、県内の医療機関における適正かつ安全な輸血療法の向上を目指す。来年度も令和5年度同様、岐阜県合同輸血療法委員会の活動方針を基本に事業を推進していく。

事業計画については、以下のとおり。また、部会活動内容については資料のとおり。

- ・合同輸血療法委員会の開催
- ・専門部会の開催(5回程度)、輸血医療機関協議会の開催
- ・厚生労働省の血液製剤使用適正化方策調査研究事業申請
- ・輸血療法連絡会(東海地区)への参加

(西野副委員長)

では、こちらの計画のとおり、活動を進めていく。

(3) 報告 県内における献血状況及び血液製剤供給状況について

① 献血推進事業の状況について

薬務水道課柴田係長から資料に基づき説明を行った。

<概要>

「献血の推進により、県内における安定的な血液供給を確保する」ことを基本方針として献血を推進している。今年度の献血の状況は、12月までの実績で献血者数及び献血量ともに目標値を上回った。しかしながら、岐阜県では10～30代の若い世代の献血者数の割合が年々減少しており、学生献血ボランティア活動など、若年層に対する献血啓発の取り組みを強化している。また、来年度7月に当県で開催する「第60回献血運動推進全国大会」についてもご協力をお願いしたい。

② 血液製剤の供給状況について

岐阜県赤十字血液センターの志知課長から資料に基づき説明を行った。

<概要>

岐阜県内の医療機関への赤血球製剤の供給は対前年比で99%、FFPは97%、血小板製剤は102%であった。医療機関に供給された赤血球製剤の構成比としては95.4%が400mL製剤である。人口千人あたりに占める全血献血者数の割合、赤血球製剤供給単位数の割合は、全国平均に比べて低い。採血供給比は、県内の供給数が献血量を上回っている状況である。

岐阜県内輸血用血液製剤供給実績上位30医療機関における移動採血車の配車状況についてはご覧のとおりであるが、医療機関での献血のご協力もお願いしたい。

(西野副委員長)

全体を通して、何かご意見はあるか。

意見ないようであれば、本日の議事を終了いたします。

最後に、岐阜県赤十字血液センター高橋所長より閉会のあいさつをしていただき、委員会を終了した。